

---

# 悪ノ娘

夢人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

悪ノ娘

### 【Nコード】

N7726Q

### 【作者名】

夢人

### 【あらすじ】

えっと・・・・・・・・。ある日突然筋肉ムキムキのグラサンをかけた男の人に追いかけて、助けに来てくれた人がまったく知らない人だったらあなたの場合どうしますか？おとなしくつかまるか、まったく知らない人を頼るか・・・・・・・・。究極の二択を迫られた少女はなぜ追われているのか？そんな話です。

良い子は悪い人についてはいけません。 part?

.....side

Trust me

しは信じた。彼らのことを。

そういわれて。あた  
なのに、ね.....

こんな、残酷なまでに冷め切ったココロ.....。生まれて初めて感じたキモチ。あたしの視線の先には男が二人。あたしのこのキモチは彼等に対してなの？同じくらいの背の高さ。でも身にまとう雰囲気が違う.....。気がする。

一人の特徴はマツクロ。身にまとった雰囲気も冷酷でオオカミのようだ。でも目はクルミのように丸い。少し長めの黒い髪、黒い細身のスーツにネクタイをしてはいない。青いスポーツバックにはいるんなものが入っている。気がする。そして手には赤ちゃんほどもありそうなクマのぬいぐるみ。あれはあたしのだった。なぜ彼が持っているのかは知らない。そういうメルヘンチックなものが好きなのかな？未だに分からない。クマのぬいぐるみもそうだけど彼は異質な人だ、と思う。目が青いから。ひょっとして日本人じゃないのかな？

もう一人はま逆のように見える。身にまとった雰囲気はオオカミというよりむしろ、羊のよう。黒髪の男とおなじような目で彼の目も青い。スーツも同じく細身であるが、灰色だ。彼は赤いネクタイをしている。手には何も持っていない。口にはタバコ。

この場所は良く分らない。どこかの倉庫なのかな？彼等は思い思いに立ち尽くしている。あたしは椅子に座ってホント、訳わかない。愛犬のベスの散歩してたら急に知らないグラサンのオジサン

に追いかけてられて、彼等に遭って半ば強引に車に乗せられた。車の中にはあたしの聖書とそのほかの本があつてそのときは信用するか術はなかった。

でも……われに返つてみると……なんで付いてきたんだろう？見たこと無い人なのにね。学校で「知らない人についていってはいけません」って言われてるのにね。とりあえず話しかけようと、試みる。

「……………ねえ。」

「……………」 「……………」 二人は無言だ。  
気付いてないのかな？

「ねえつてば！」 あたし、声を荒げる。

「うわあ?!なに!?!」 「うひゃ?!なに!?!」 同時に  
びつくりする。

「あたしを誘拐してどうするの?つてかああなたたち誰?ここはどこ?どこへ」 ?

「はいはいはいはいお願いだから畳み掛けしないで下さい。答え  
えますから。まずは。」

「俺たちが誰か、だろ?」 灰色の羊が言ったあと漆黒の狼が  
言い、あたしが頷く。

「僕は紺野 聖太。」 灰色の羊が言う。



つきより丁寧な言い方だ。聖平……が目を擦る。

「どうした聖平？……コンタクトだろ。外してていいぞ。」

「コンタクト？目、悪いの？」

「兄貴も外せよ。痛くないか？」 あっ、外したら目が黒い。

ひよっとして……。

「カラーコンタクト?!」

良い子は悪い人についていいはいけません。 part? (後書き)

よく分からない話の展開ですいませんm ( ) m

良い子は悪い人についていいはいけません。 part? (前書き)

また突拍子もない話の展開・・・・・・。 すいません。 作者の筆  
力不足です。



良い子は悪い人についていってはいけません。 part?

ああもう！何にも信じらんない！なんで今まで知らなかった人たちにいきなり「お嬢様」呼ばわりされなきゃいけないの！今まで言わなかったけどあたしの家は昔からある企業で、家に常に2〜3人は執事さんがいた。だからそう呼ばれるのは慣れている。けど、クラスの子達に茶化されるからいつも送り迎えを断っていた。「家に行きたい」といわれたら断っていた。そう、あたしはお嬢様がいやなの。まあ慣れてるけど。でも……知らない人にそういわれる筋合いはないつつ！もうガマンできないつつ！

「あんたたちさあ。」「二人が一齐にこつちを向く。」

「いい加減にしてよね！何で今まで見ず知らずだったあんたたちからいきなりお嬢様呼ばわりされなきゃいけないわけ?!いきなりにもほどがあるでしょう!!」 集中攻撃を食らった二人は目が点になっている。さすがにちよつと言いすぎちゃった?でもどめをささなきゃ気が落ち着かない。

「今すぐ家に帰して!」 フツと聖平が笑う。 なつ、何よ。

「家にいたらアブナイからここにいるんだろうが。グラサンのムキムキにおいかけられたの、早くも忘れちゃいましたか?オジョウサマ?」 そうだけど……。あんなのにまた追いかけられるとなると、やだなあってなる。でも……。さあ。。言い方があるでしょうが!

「じゃあさ、さっさと教えてよ!何であたしが追っかけられてん

のか！」

「そ、それは。。。いえないけどよ……………」  
……はあ？

「帰る！」…………馬鹿馬鹿しい。。。もうやってらんないわよ。さっさと帰ってベスを探そう。倉庫の重い扉を開ける。ほーら誰もいない。ハトと戯れる（というかハトを襲ってる）ベスがいる。  
…………ん？ベス？

「ベスウウウウ！」…………追っかけてくれたの？さ、家に帰るよ！

家への帰路を歩いていると見覚えのある車が通りすぎる。何だっけ？メツチャ嫌な予感がする。。。うん。思い出した。あのムキムキマツチヨだ…………。クルリと向きを変えて走る。陸上部なんだからね！それでも！足には自信があるもん！走って走って走って  
その先には。

「聖太！聖平！乗せてつつつつ！」…………ううゝ横腹がいたい…………。Wで気持ち悪い…………。

「自分勝手な…………。」…………す・い・ま・せ・ん・ねえ！シヨーガ無いでしょ！ってか早く出してよ！相手は車なのよ！ってかよく逃げられたなあ、あたし。

「久しぶり」…………うん。久しぶり。…………つつつて！

「何が久しぶりよ！バツカじゃないの？！あんたたちのせいで危ない目に遭ったんだからね！」…………でも、アリガト。拾ってくれて。

「いやしかし、俺らが尾行してなかったら危なかったぞ。あいつらに捕まってただろ。」  
今、ものすごく後悔した、アリガト  
って思ったことを。

「ストーカーっつっ！つてか早く教えてよ。なんで追っかけられてるの？あたしとあんたたちはどういう関係？」

「わかったから。黙れ！Shut up！」  
ひっどー  
い。。。

良い子は悪い人についていいはいけません。 part? (後書き)

次回はその「話」の内容です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7726q/>

---

悪ノ娘

2011年10月7日17時23分発行